

# 日頃から災害にそなえよう

早め早め  
ポイントです

ふだん、なにげなく暮らしている私たちの日常生活。時には、大きな地震の発生や大自然の脅威にさらされることもあります。災害はいつやってきて私たちを襲うかわかりません。そして、いざ災害が起きたときは、救助が来るのにすごく時間がかかるかもしれません。

皆さんも、この「**嘉手納町防災マップ**」を参考にして、さまざまな災害に備えて、「**自分の身は、自分で守る**」という心構えを強く持ちましょう。そして、家族や地域の人たちと協力して、自分を守るために知識を身につけ、普段から備えをしておきましょう。

## 2つの「避難行動」

「避難行動」とは数分から数時間後に起こるかもしれない自然災害から「命を守るための行動」です。

### 立ち退き避難(基本)



避難所や高台の公園などの安全な場所への**水平避難**

**津波、土砂災害(かけ崩れや土石流)、高潮など**

### 屋内安全確保(緊急時)



近隣の頑丈な建物や屋内の浸水などから安全を確保できる2階以上の場所へ**垂直避難**

**暴風、竜巻、浸水など**

**※津波の場合は3階以上へ**

### 警戒レベルで避難のタイミングを明確化

### 水害・土砂災害の防災情報の伝え方が変わります

住民等が情報の意味を直感的に理解できるよう、防災情報を5段階の警戒レベルにより提供し、るべき行動の対応が明確化されました。

**市町村から警戒レベル③・④が発令された地域にお住まいの方は、速やかに避難してください。**

警戒レベル	住民がとるべき行動	避難情報	防災気象情報
5	すでに災害が発生 命を守るための最善の行動	災害発生情報 市町村が発令	大雨特別警報 氾濫発生情報 等
4	<b>全員避難</b> 速やかに避難先へ避難しましょう。 公的な避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所や自宅内より安全な場所に避難しましょう。	避難勧告 避難指示(緊急) 市町村が発令	氾濫危険情報 土砂災害警戒情報 等
3	<b>高齢者・障害のある方・乳幼児等</b> とその支援者は避難をしましょう。	避難準備・ 高齢者等避難開始 市町村が発令	氾濫警戒情報 洪水警報 等
2	避難に備え、ハザードマップ等により、 自らの避難行動を確認	洪水注意報 大雨注意報 等	気象庁が発表
1	災害への心がまえを高める	警報級の可能性 (早期注意情報)	

- 身の危険を感じたときは警戒レベルに関わらず避難してください。
- 必ずしも段階的に、レベル1から順に発令されるとは限りません。

## 持ち出し袋の保管等注意点

※大規模災害発生時には「1週間分」の備蓄が望ましい

リュックなどの  
背負える袋で

1人1個づつ  
個別に分散

すぐに取り出せる  
場所に置く

季節や有効期限等  
に注意する

普段の食生活で  
毎日常温消費しながら食生活を  
保つことが大切です。

### 食糧

そのまま食べられるか、簡単な調理で食べられるもの、缶詰やレトルト食品、切りもち、チヨコレート、梅干し、チーズ、調味料など。甘いものはカロリーが高く子どもたちも喜び、心を落ち着かせ、安心感を与えることができます。

※赤ちゃんのいる家庭は粉ミルク、哺乳瓶なども。



### 水

飲料水は、大人一人当たり1日3リットルが目安。飲料水以外に炊事、洗濯、トイレなどに使う生活用水の確保のため、風呂の水は抜かず、寝る前はポットややかんに水をいれておく。



### 燃料その他

卓上コンロ、固体燃料や予備のガスボンベは多めに用意を。アウトドア用の携帯コンロも便利。その他、過去の地震災害で最も困った例がみられた携帯トイレのほか、洗面具、生理用品、ビニール袋、キッチン用ラップ、新聞紙など。



## 立ち退き避難のポイント



正しい情報・正しい行動  
うわさやデマに惑わされない



荷物を最小限に



避難時の服装

頭部をヘルメットや防災頭巾で保護  
上着は長そで  
手には何も持たない  
長ズボン  
丈夫な靴  
×長靴・裸足



家族の安全を確認、隣近所に人がや  
行方不明者がいないか  
声かけ



子供や高齢者の手はしっかりと  
ぎって



避難の前にガスの元栓をしめる  
ブレーカーを落とす



外出の家族のために連絡先メモ



2人以上の徒歩で避難  
(車での避難は控える\*)



狭ぎや狭い道をさける

\* 洪渉を招き緊急車両の妨げになったり、道路冠水などにより動けなくなる場合があります。

# 地震・津波災害にそなえて

## 事前対策

### 家庭の防災会議

災害時の避難場所や連絡方法などを、あらかじめ話し合っておきましょう



### 家具は動かないように固定

L字金具などで壁に固定するのが最適。壁に穴をあけられない場合は、専用のツッパリ棒などで



## 地震発生と避難行動

# 地震発生

1~2分

- グラッときたらまず身の安全の確保



- あわてて家の外にとびださない
- 出口の確保



- 摆が収まつたらすぐに火の元確認



※ 安全を確保できない場合は無理に火に近づかない

- 火が出たら素早く消火
- わが家の安全を確認



### 屋外では

- 大きな家具や窓ガラスから離れる



- 看板やブロック塀、窓ガラスから離れる



- 靴や厚手のスリッパを履き、ガラスの破片などから足を守る

### 海拔の低い所にいる場合

- 強い揆れや、長く続くゆっくりとした揆を感じたら、津波警報や避難指示を待たずにすぐ避難する
- 情報収集は避難した後で!

3~5分

- ! 非常持出品を準備する
- ! 避難勧告・指示が発令されたらすぐに避難
- ! 火が天井に燃え移ったときもすぐに避難

### 家を出るとき

ガスの元栓は締める  
ブレーカーは落としておく



隣近所の高齢者や障がいのある方には積極的に声をかけて避難支援

## 避難

## 津波警報等の種類・とるべき行動

津波警報等の種類	発表される津波の高さ		津波警報等を見聞きした場合にとるべき行動
	数値での発表 (津波の高さ予想の区分)	巨大地震の場合の発表	
<b>大津波警報*</b>	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
<b>津波警報</b>	10m (5m<予想高さ10m) 5m (3m<予想高さ5m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。 沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど安全な場所へ避難してください。
<b>津波注意報</b>	3m (1m<予想高さ≤3m)	(表記なし)	海の中では人は速い流れに巻き込まれ、また、養殖いかが流失し小型船舶が転覆します。 海の中にいる人はただちに海から上がって、海岸から離れてください。

\* 大津波警報は、特別警報に位置づけられています。

### 遠く、高くへ逃げる

緊急時 逃げ遅れた場合など

#### 垂直避難



遠方で発生した地震による津波が到達することもあります。

揆を感じなくても、津波警報や避難指示が出たら避難しましょう。

### 不発弾を見つけたら

これってもしかして

陸上で発見した場合は  
最寄りの交番・警察署に

さわらない

動かさない

大人に知らせる

大人は警察に  
しらせる

110番

海中で発見した場合は  
海上保安部へ

さわらない

動かさない

大人に知らせる

大人は警察に  
しらせる

118番

埋没不発弾に関する情報がある場合には最寄りの市町村役場に連絡しましょう。

県内で発見される  
主な不発弾



長い年月によって風化し、姿形が変わりはてしまい、見分けがつかない場合もあります。

### 不発弾とは

「不発弾」とは、戦争の時に使われた砲弾や、航空機から投下された爆弾等で、地上や海に落下しても、発火せず“不発”となったもの、あるいはその疑いのあるものを一般に不発弾と呼んでいます。

このような不発弾は、起爆装置(信管)の安全装置が外されており、何らかの衝撃で何時でも発火装置が起動(作動)する状態にあることが予想され非常に危険です。



## 台風・風水害と避難行動

常に最新の  
台風情報を!

沖縄地方に近づく台風は、最も勢力が強くなったり、移動速度が遅くなったりするため、沖縄地方では長い間、台風の影響を受ける場合があります。平成30年の台風24号は、各地で記録的な大雨や暴風が吹き、一時は23万世帯が停電となりました。嘉手納町では暴風・波浪・高潮の影響につき、水釜護岸一帯にて冠水・浸水被害が発生。堤防破損等の大きな被害をもたらしました。また平成26年の台風8号では、比謝橋が冠水し道路を閉鎖しました。

台風災害の防止・軽減には、普段からの備えと、早めの台風対策が重要です。また、台風接近時においては、常に最新の台風情報を入手するよう心掛け、不要不急の外出を控えましょう。

### ✓ 台風が接近したら、まず家の補強を

雨戸がない窓  
カーテンを閉めたり、飛散防止フィルムを貼る

乗り物

自動車やバイクはカバーをかけ固定する

土のう

水の浸入を防ぐために設置するブルーシートで包むと効果的

物干し竿  
飛ばされないようにおろしておく

スマホ、モバイルバッテリー、お風呂の水、洗濯機の水、車のガソリンは満タンにしておく

窓  
・ベニヤ板で補強  
・ガムテープで×印補強  
・窓のサッシに新聞やタオルで目張りする

植木鉢、子供の玩具、自転車など  
飛ばされないように家中に入れる、一ヶ所にまとめておく

### ✓ 水・燃料などは満タンに 非常用品のチェックを

食糧、飲料水、懐中電灯、ラジオ、ライター、簡単な衣料品ぐらいいは揃えて、リュックに入れておきます。

### ✓ 停電や断水に備え、

### 非常用品のチェックを

洪水などにより避難路が浸水している場合は、無理に避難をせず、自宅2階や高い所で救助を待ちましょう！  
ひざ下程度の深さでも流れが早い場合は非常に危険です！

### ✓ 無理は禁物

### 洪水などにより避難路が

### 浸水している場合は、無理に避難をせず、

### 自宅2階や高い所で救助を待

### ましよう！

### ひざ下程度の深さでも流れが早

### い場合は非常に危険です！

側溝・雨どい  
側溝や雨どいに草やごみが詰まっているか確認し、掃除する必要があれば補修

### 雨の強さと降り方

予報用語	1時間雨量(mm)	人の受けるイメージ
やや強い雨	10~20	ザーザーと降る
強い雨	20~30	どしゃ降り
激しい雨	30~50	バケツをひっくり返したように降る
非常に激しい雨	50~80	滝のように降る(ゴーゴーと降り続く)
猛烈な雨	80以上~	息苦しくなるような圧迫感がある。恐怖を感じる。

### 風の強さと吹き方

風の強さ	平均風速(m/s)	風に向かって歩きにくくなる。傘がさせない。
やや強い風	10~15	風に向かって歩けなくなり、転倒する人も出る。高所での作業はきわめて危険。
強い風	15~20	何かにつかまつないと立ていられない。飛来物によって負傷するおそれがある。固定されていないプレハブ小屋が移動、転倒する。ビニールハウスのフィルム(被覆材)が広範囲に破れる。
非常に強い風	20~25	屋外での行動は極めて危険。多くの樹木が倒れる。電柱や街灯で倒れるものがある。ブロック壁で倒壊するものがある。走行中のトラックが横転する。
猛烈な風	25~30	
	30~35	
	35~40	
	40~	

### 台風の大きさ

階級	風速15m/s以上の半径
大型(大きい)	500km以上~800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

### 台風の強さ

階級	最大風速
強い	33m/s(64ノット)以上~44m/s(85ノット)未満
非常に強い	44m/s(85ノット)以上~54m/s(105ノット)未満
猛烈な	54m/s(105ノット)以上

台風のおおよその勢力を示す目安として、上表のように風速(10分間平均)をもとに台風の「大きさ」と「強さ」を表現します。「大きさ」は強風域(風速15m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲)の半径で、「強さ」は最大風速で区分しています。さらに、風速25m/s以上の風が吹いているか、吹く可能性がある範囲を**暴風域**と呼びます。

特別警報が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください

### 気象等に関する特別警報の発表基準

現象の種類	基 準	
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合	
暴風		暴風が吹くと予想される場合
高潮	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により	高潮になると予想される場合
波浪		高波になると予想される場合



(注) 発表にあたっては、降水量、台風の中心気圧、最大風速などについて過去の災害事例に照らして算出した客観的な指標を設け、これらの実況および予想に基づいて判断をします。

特別警報が出た場合、お住まいの地域は数十年に一度しかないような非常に危険な状況にあります。周囲の状況や市町村から発表される避難指示・避難勧告などの情報に留意し、ただちに命を守るための行動をとってください。

### 雷の被害にあわないために

雷の音と稲妻の間隔が近くなったら、家の中に入り、テレビなどのコンセントを抜き、部屋のまん中にいるようにしましょう。

また、野外では体を低くし、雷が遠ざかるのを待ちましょう。

### 急傾斜地・がけ近くは、土砂災害に注意

大雨や集中豪雨で発生する土砂災害の前兆現象には、次のようなものがあります。

- ・小石がパラパラ落ちる・地面にひび割れができる
- ・斜面からにごった水が流れ出る

これらの前兆現象を発見したら町役場に連絡してください。避難勧告がでたら、すぐに避難しましょう。

### 竜巻から身を守る

沖縄県は竜巻発生率日本一！

### 異変を感じたら頑丈な建物に移動しましょう



夏場は台風や熱帯低気圧などに伴い、多くの竜巻が確認されています。

気象庁発表の「竜巻注意情報」を受け取ったら空の変化に注意し、発達した積乱雲が接近する兆しがある場合は、頑丈な建物内に移動するなどの安全行動をとって下さい。

### 屋内にいる場合

- 窓を開けない
- 窓から離れる
- カーテンを引く
- 雨戸・シャッターを閉める
- 地下室や建物の最下階に移動
- 家の中に近い、窓のない部屋(トイレ等)に移動
- 部屋の隅・ドア・外壁から離れる
- 丈夫な机の下に入り両腕で頭と首を守る

### 屋外にいる場合

- 車庫・プレハブを避難場所にしない
- 橋や陸橋の下にいかない
- 近くの頑丈な建物に避難する
- 地下室や建物の最下階に移動する
- 頑丈な建物が無い場合は近くの水路やくぼみに身を伏せ両腕で頭と首を守る
- 飛来物に注意する

# 洪水・土砂災害にそなえて

雨がやんでも  
注意が必要

## 外水はん濫【洪水】

### 【発生の仕方】

大雨により大きな河川の水量が増え、堤防が決壊したり、堤防を越えて水があふれだすはん濫。

### 【特徴・予測】

- 雨が降っていないくても、上流域で大雨が降っていれば発生する可能性がある。
- 降雨状況や水位から比較的、事前の予測が可能である。



## どこでも起こる可能性のある内水はん濫

### 【発生の仕方】

雨水を大きな河川へ流す排水が追い付かず、小さな川やマンホール、側溝から水があふれるはん濫。

### 【特徴・予測】

- 短時間の局地的大雨でも発生し、突如として浸水する。
- 事前の予測が困難であり、警報等が発表されていないくても発生する場合がある。

## はん濫するとどうなるの？



エンジンが停止したり、ドアが開かない等、車内から出られないことがあります。



流れ込んでくる水は泥水であり、水が引いた後も土砂や泥が堆積するため、片付けが大変です。



河川沿いでは、家屋が倒壊し、命の危険性もあります。

## 土砂災害の前兆現象

土砂災害を発生させる現象には、主に「かけ崩れ」「地すべり」「土石流」の3つの種類があり、これらが発生するときには、何らかの前兆現象が現れることがあります。下に挙げたものは主な前兆現象です。こうした前兆現象に気づいたら、周囲の人々に声をかけあい、いち早く安全な場所に避難することが大事です。



斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象。崩れ落ちるまでの時間がごく短いため、人家の近くでは逃げ遅れも発生し、人命を奪うことが多い。



山腹や川底の土、砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象。時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畠などを壊滅させてしまうことも。



斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象。土塊の移動量が大きいため甚大な被害が発生。



## 避難の際に注意すべきこと



雨に注意しましょう。

土石流の多くは雨が引き金になって起こります。長雨や大雨で危険だと思ったら、早めに退避しましょう。1時間に20ミリ以上、または降り始めから100ミリ以上の降雨量になったら十分な注意が必要です。



安全な避難経路の確認

避難場所までの経路は、あらかじめ自分たちで決めておき、安全に通行できるかを確認しておきましょう。



逃げ方を覚えましょう。

土石流はスピードが速いため、流れを背にして逃げたのでは追いつかれてしまいます。土砂の流れる方向に対して直角に逃げるようになさってください。



斜面から離れる

## 車で避難の危険性

水深30cmで、ほとんどの車のエンジンは止まってしまいます。從って浸水や冠水の危険を感じたら、すみやかに車を高台などに移動させましょう。冠水のためエンジンが止まったり、車のフロア面を超えて浸水・冠水した場合、エンジンの吸気系に水が入っているかもしれないのに、道路の水が引いたからといってそのままエンジンをかけると、故障の恐れがあります。



▲平成26年台風8号による比謝橋の冠水

## 自動車が冠水した道路を走行する際に生じる不具合

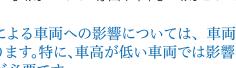
脱出用ハンマーで割れる  
(合わせガラスは割れない)

水深が床面を超えると、電気装置が損傷し、自動スライドドアやパワーウィンドウが動作しなくなるおそれ

吸気口から浸水するとエンジンが停止し、再始動しなくなるおそれ(速度が大きいと浸水しやすくなる)



水流がある場合、車両が流されるおそれ



マフラーから浸水するとエンジンが停止し、再始動しなくなるおそれ

水深がドアの下端にかかると、車外の水圧により内側からドアを開けることが困難となり、ドア高さの半分を超えると、内側からほぼ開けられなくなるおそれ※

※内外の水圧差がなくなるまで浸水すると、内側からドアが開くようになります

タイヤが完全に水没すると、車体が浮いて移動が困難になるおそれ

自動車は、水深が深い場所を走行できるように設計されていません。このため、大雨等の際には、早めの避難を心掛けすることはもちろん、冠水した道路上に安易に進入しないこと、冠水路で自動車が動かなくなつた場合には早めに脱出することが重要です。